

第3章 都市づくりの目標

- 菊池市の都市づくりの目標として、理念や人口等の目標、及びまちづくりの目標について、またこの目標を支える都市構造や主たる土地利用のあり方について示します。
- 菊池市総合計画に示される方向性を基本として、都市づくりを進めます。

3-1 まちづくりの理念

菊池市が有する豊かな自然環境を基盤とした3つのまちづくりの方向性や、総合計画策定時に実施した市民アンケート調査による新しい菊池市に対する市民の思い「福祉、快適、人、安心、安全、歴史・文化」を踏まえ、菊池市のまちづくりの理念を設定しました。

都市計画マスタープランは、このまちづくりの理念に基づき、自然環境の保全、歴史・文化などの観光資源をいかしながら、一方で産業の振興を図るとともに、安全で安心な生活環境の充実や、利便性、効率性のある土地利用の実現を進めていくことが必要とされています。

3つのまちづくりの方向性

○人々がつなぐ歴史や文化をまちづくりに活用

〔歴史的にみた九州の政治的中心都市〕〔農業技術の先進地域〕

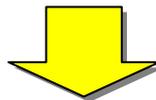
○人々が生み出す活気をまちづくりに活用

〔安全で高品質な農産物〕〔活発な企業立地〕〔豊かな自然、歴史、観光資源〕

○人々が織りなすやさしさをまちづくりに活用

〔生活空間の向上〕〔景観・自然環境の保全〕〔少子高齢化等への対応〕

まちづくりの理念



豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち

— 菊池市の豊かな自然環境や歴史を活かし、
人のやさしさでつくりあげる健康で活力のあるまちづくり —

光；太陽の光⇒自然環境の保全・活用⇒夢や希望

田園文化のまち⇒歴史や文化を活用

3-2 主要指標の見通しと目標

(1) 人口の推移

全国的には平均出生率の低下によって少子高齢化が進み、平成16年をピークに人口が減少しています。同様に熊本県でも将来的に人口の減少が予想されます。菊池市では平成12年までは総人口は増加してきましたが、平成17年は減少に転じました。また、年少人口、生産年齢人口は減少を続けています。

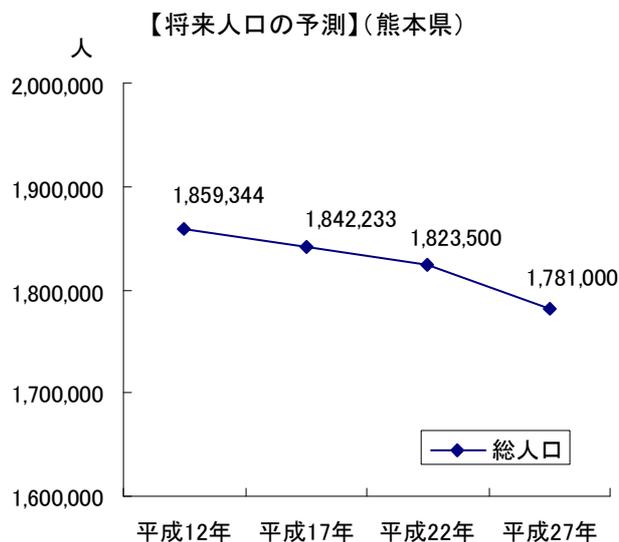
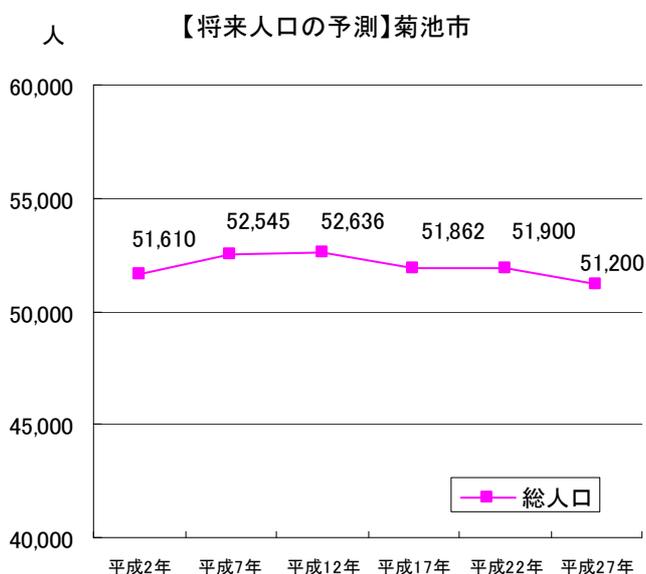
菊池市の将来人口は、コーホート要因法※による推計で平成27年には総人口51,200人で、年少人口（0～14歳）7,800人、生産人口（15～64歳）29,200人、高齢人口（65歳以上）14,200人になると予想されます。

【将来人口の予測(単位:人)】

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口	51,610	52,545	52,636	51,862	51,900	51,200
年少人口	10,054	9,544	8,620	7,433	7,700	7,800
生産人口	32,465	32,179	31,711	30,919	30,900	29,200
高齢人口	9,091	10,822	12,305	13,487	13,300	14,200
高齢化率	17.6	20.6	23.4	26.0	25.6	27.7
	実績値				推計値	

※実績値…国勢調査、推計値…コーホート要因法※

【コーホート要因法による人口予測(単位:人)】



※コーホート要因法

- ・人口を年齢別に5歳ごとの断層に分け、各段階から5年ごとに1階層上がる際、どれだけ増減するかを計算する人口推計の一般的な方法のこと。

(2) 世帯数の推移

本市の世帯数は、推計した世帯規模とコーホート要因法により推計した将来人口により算出しました。

なお、本市の世帯規模は、過去の推移を見ると減少傾向にあります。将来は、その傾向が緩やかになるという条件の基に推計しました。

その結果、本市の世帯規模は平成27年には3.07人/世帯と予測され、世帯数は平成27年には16,700世帯と想定されます。

【世帯数の推移】

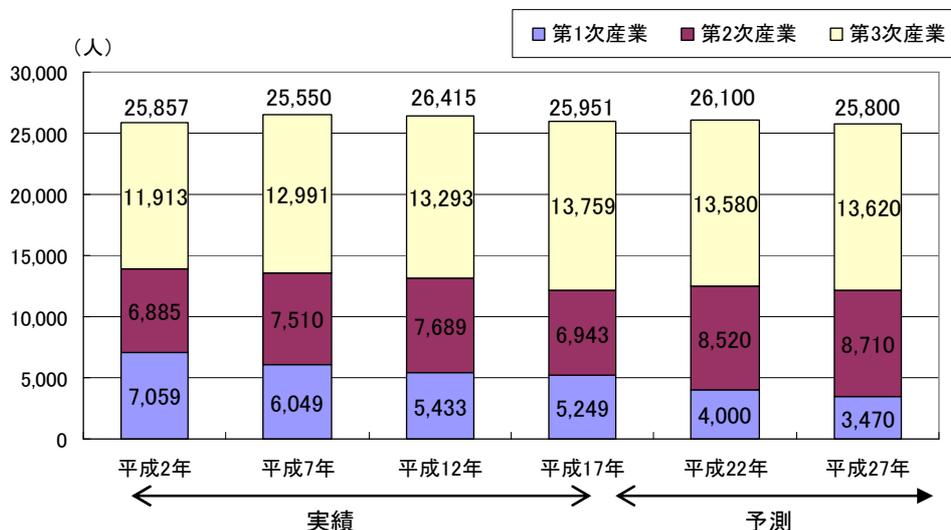


(3) 就業人口の推移

本市の就業人口は、平成27年の産業別就業者人口は25,800人と予測されます。

産業別にみると第1次産業3,500人、第2次産業8,700人、第3次産業13,600人であり、平成17年と比較すると、第1次産業が約1,800人の減少、第2次産業が約1,800人増加、第3次産業が約100人減少することになります。

【就業人口の推移】



(4) 将来人口の目標

本市の将来人口の目標は、菊池市総合計画（基本構想・前期基本計画）において、平成27年に52,800人を目標と位置づけられております。

総合計画作成当時の平成27年の人口予測が51,200人であるのに対し、平成20年12月に国立社会保障・人口問題研究所が出した推計では49,096人となっており、さらに著しい人口減少が予測されております。

人口の減少は、少子高齢化をさらに促進し、地域活力が著しく損なわれる恐れがありますので、次のような人口減少に対する歯止め策を講じていきます。

1. 県営菊池テクパーク（工業団地）の早期完成と、菊池市企業誘致促進補助金制度のPRによる積極的企業誘致を行い、雇用の場の確保に努めます。
2. 住みたい・住み続けたいと思えるよう、小学生までの医療費負担軽減などの子育て支援の推進や高齢者の生きがい作りとなる社会参加促進など、社会福祉の充実を図ります。
3. 菊池市定住化促進に向けたガイドライン（住宅対策編）に基づく、空き家・空き地情報活用制度の充実、「高齢者にやさしい賃貸住宅整備補助金」制度を利用し、高齢者の市街地への居住促進による市街地の活性化、グリーンツーリズムや農業体験を通じた田舎暮らしの応援などを行い、定住化を推進します。
4. 市道の段差解消やグレードアップ舗装、都市計画道路隈府中央線の整備など、交通の利便性の向上や良好な住環境の確保に努め、暮らし易いまちづくりを進めます。

3-3 将来都市構造

(1) 将来都市構造の考え方

都市構造とは、都市の経済的、社会的活動を支える、中心的場所（拠点）や様々な移動を支える中心的交通（交通軸）、さらにその土地を形成する主要な土地利用（山、田畑、市街地などのゾーン）を指します。すなわち都市構造はまちづくりの骨格として位置づけます。

菊池市の都市構造を考える上でのポイントとして、以下の点があげられます。

〔菊池市の将来構造を考える上でのポイント〕

①自然や田園の風景を大事にすること

- ◇市民意識調査などで、将来残したい地区の資源の第一位になっています。
- ◇農業は本市の基幹産業であり、山林は観光資源などが多く分布しています。

②旧市町村の中心部などでコンパクトな市街地形成を図ること

- ◇合併前は旧役場周辺が地域の中心でした。
- ◇省エネルギー対策や少子高齢化の進行のもと、コンパクトなまちづくりが求められています。

③交通ネットワークの充実を図ること

- ◇合併にともない、旧市町村間の交流による社会経済の効率化、高度化が必要とされています。
- ◇幹線道路は菊池市の移動の基盤です。広域幹線道路や地区内幹線道路などの充実が必要とされています。
- ◇幹線道路沿道は便利な場所です。良好な田園風景などを保全しながら、沿道の土地の有効活用が必要です。

④交流人口を増やすこと

- ◇菊池市にとって観光は主要な産業です。このため、九州新幹線新玉名駅や九州自動車道植木インターチェンジなどとの交通ネットワークの充実が必要です。
- ◇産業の一層の誘致のためにも広域交通ネットワークの充実が必要です。

〔将来都市構造の方向性〕

□利便性の高い地域中心の形成

- ・生活利便施設や身近な公園、集会施設などの充実
- ・安全・安心で快適な道路ネットワークの形成

□にぎわいある中心拠点の形成

- ・中心商業施設や中心文化施設、大規模公園、観光施設など、にぎわいのある交流拠点としての充実

□めりはりのある土地利用の実現

- ・山林、田園の保全とコンパクトな市街地形成のための無秩序な市街化の抑制
- ・利用効率の高い幹線道路沿道への適切な土地利用の誘導

□広域交通ネットワークの充実

- ・国道 325 号、387 号や、新幹線新玉名駅方面の広域交通ネットワークの充実

□地域中心間の交通ネットワークの充実

- ・地域内移動利便性向上のための地域連絡道路の充実

(2) 都市構造のテーマ

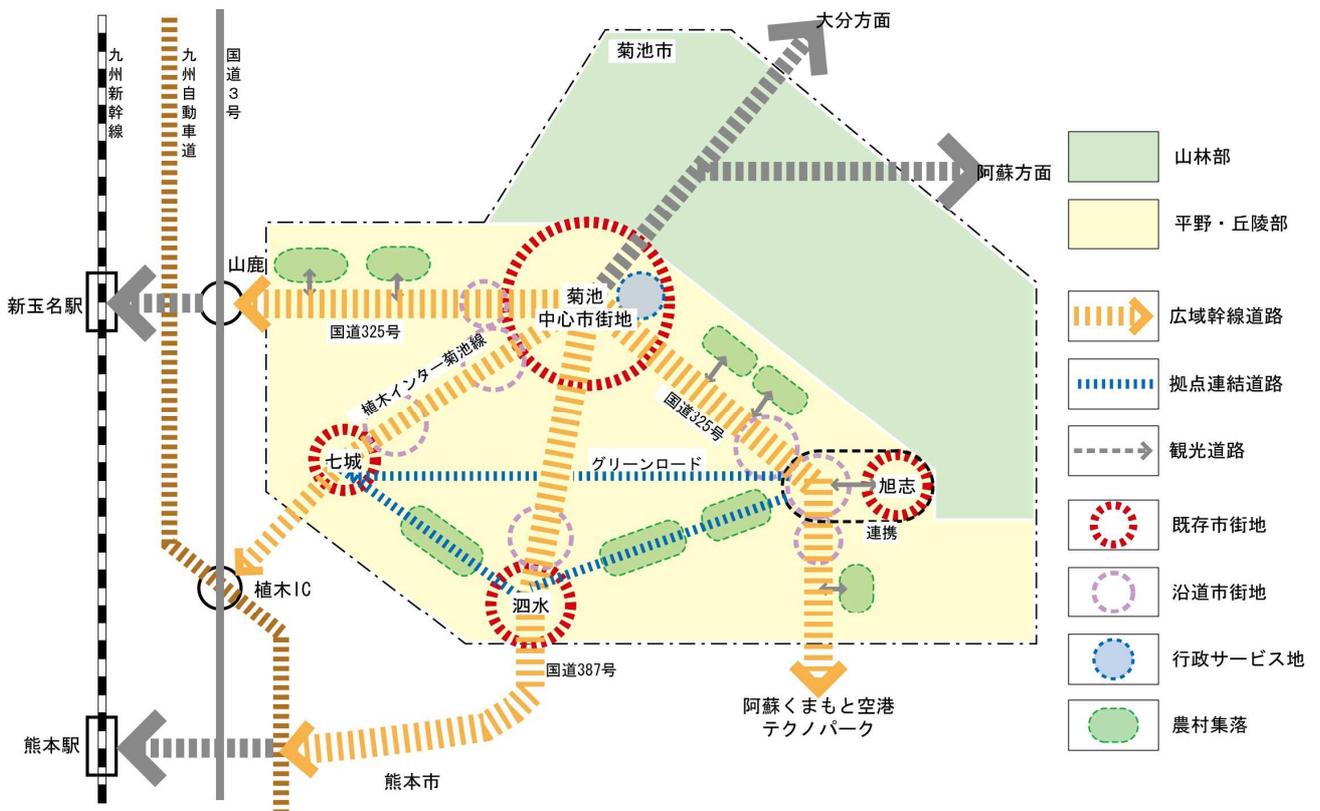
もやいによる集住のまち

＝コンパクト・ネットワーク・シティ＝

〔イメージ〕

- 現在の中心市街地や旧市町村中心部を核とした、まとまった市街地形成
- 幹線道路沿道における優良農地等の保全を図りながら、生活利便施設等の適切な誘導（道路の効率的利用）
- 田園集落の風景環境の維持・更新と周辺農地等の保全
- 山林の自然環境の維持・保全と多様な活用（観光等）
- 広域ネットワーク充実のための国道道等の機能強化
- 旧市町村中心部を相互に結ぶ地域幹線道路の機能強化

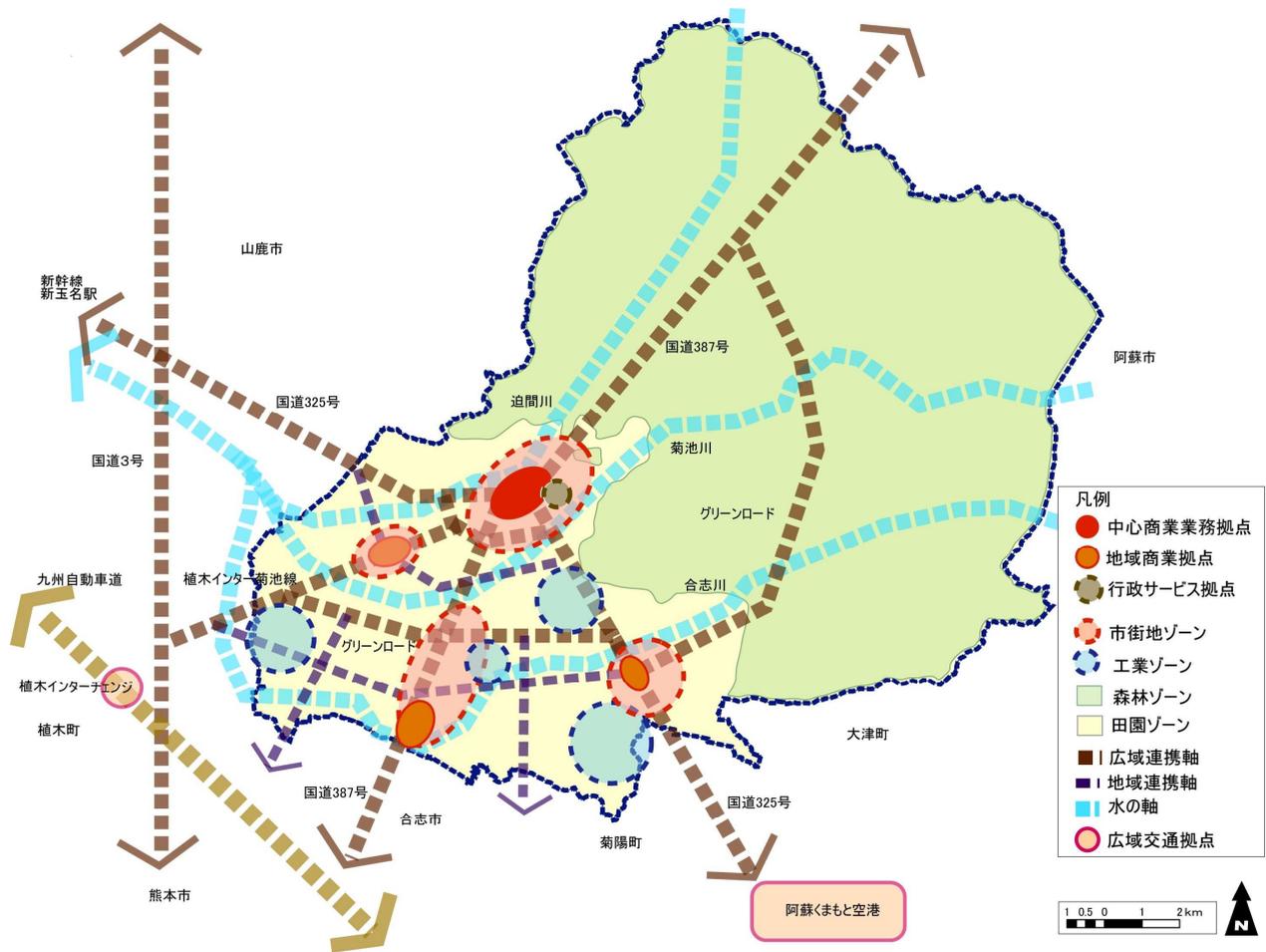
◆将来都市構造のイメージ図



(3) 基本となる都市構造

本市の都市構造は、菊池市総合計画に示される土地利用の構造図を基本とし、次ページに示すような考え方で、『4つの大きな土地利用の方向』、『都市拠点』、それと都市の骨格となる広域幹線道路を骨格とした『広域連携軸』から構成されるものとします。

◆菊池市都市構造図



■ 将来都市構造の考え方

